

24

静脈内鎮静法

患者の恐怖心や不安・緊張感を軽減する



静脈内鎮静法を行っているところ

歯科治療中の過度の精神的緊張状態は、ときに血管迷走神経反射などの全身的偶発症や、重篤な合併症を引き起こす誘因になる。これらを防ぐには、確実な無痛の処置はもとより、精神的緊張をやわらげるための管理が必要となる。

静脈内鎮静法とは、静脈から薬物を投与して、患者の恐怖心や不安・緊張感などのストレスを軽減することにより、円滑・快適かつ安全に患者管理を行う方法である。全身麻酔とは異なり、意識を失わせることなく安静状態を保つレベルを目標とする。

適 応

吸入鎮静法と同じ（p.46 参照）

禁 忌

- ・妊娠初期の患者
- ・使用薬物にアレルギーのある患者
- ・使用薬物が禁忌である患者（重症筋無力症、急性狭隅角緑内障、HIV プロテアーゼ阻害剤および HIV 逆転写酵素阻害剤内服中の患者）

静脈内鎮静法に使用される薬物

分 類	ベンゾジアゼピン系薬物			プロポフォール
	ジアゼパム	ミダゾラム	フルニトラゼパム	プロポフォール
一 般 名	ジアゼパム	ミダゾラム	フルニトラゼパム	プロポフォール
受 容 体	ベンゾジアゼピン受容体			GABA _A 受容体のβサブユニット
効 果	鎮静、催眠、抗不安、抗痙攣、筋弛緩			健忘、鎮静、催眠
鎮静適正投与量	0.2~0.3 mg/kg	0.05~0.075 mg/kg	0.01~0.015 mg/kg	1.0~1.5 mg/kg, TCI : 1.0~1.5 μg/mL
循環抑制	弱			強
呼吸抑制	弱			強
咽喉頭・嚥下反射抑制	弱			強
拮 抗 薬	フルマゼニル			なし

薬 物

静脈内鎮静法にはミダゾラムなどのベンゾジアゼピン系薬物とプロポフォール（25章参照）を、単独あるいは併用で投与することが多い。

フルマゼニルはベンゾジアゼピン受容体に対する拮抗薬であり、ベンゾジアゼピン系薬物による呼吸抑制や覚醒遅延が生じた場合にそれらの作用を解除するために使用する。

注意が必要な患者

- ・上気道閉塞に関連する疾患を有する患者（高度肥満、開口障害、小下顎症など）
- ・胃内容物が残存している患者
- ・重度の全身疾患を有し、とくに、呼吸循環予備力が低下している患者
- ・以前の静脈内鎮静法で有害事象の発生した患者
- ・向精神薬の長期内服治療を受けている患者
- ・筋ジストロフィー



左から ジアゼパム（ホリゾン[®]）ミダゾラム（ドルミカム[®]）フルマゼニル（アネキセイト[®]）：上記薬物の拮抗薬

静脈内鎮静法に使用する薬剤